

若年者心臓検診対策専門委員会

- 日 時 令和6年2月8日(木) 午後5時～午後6時
- 場 所 鳥取県健康会館 鳥取市戎町
鳥取県中部医師会館、鳥取県西部医師会館（テレビ会議）
- 出席者 19人
〈鳥取県健康会館〉
渡辺会長、吉田委員長
岡田(克)・石谷・遠藤・倉信・永井・長谷川各委員
オブザーバー：鳥取県教育委員会事務局体育保健課 前田指導主事
鳥取県健康政策課 山崎課長、井上係長
健対協事務局：岡本事務局長、岩垣次長、田中主任、廣瀬主事
〈鳥取県中部医師会館〉橋田委員
〈鳥取県西部医師会館〉岡田(隆)・美野各委員
オブザーバー：西部判読委員会 瀬口委員長

【概要】

- ・令和4年度の定期健康診断受診者57,690人のうち、心臓疾患精密検査対象者は1,442人、要精検率は2.50%、そのうち精密検査を受けた者は1,163人、受診率は80.7%（昨年度79.4%）であった。昨年度より1.3ポイント増加した。
- ・令和4年度の心電図検診成績は、受診者総数19,323人のうち、要精検502人、要精検率2.6%（昨年度2.7%）であった。
- ・若年者心疾患・生活習慣病対策協議会総会を、2026年1月～2月頃に鳥取県で開催する。

挨拶（要旨）

〈渡辺会長〉

年明けから、コロナ感染が拡大傾向となり第10波と呼ばれている。まだまだ、ウィズコロナを常

に視野にいれながら感染対策を行い、県民の健康生活を維持できるよう医師会の取り組みを継続していく必要がある。元旦に発生した能登半島地震については、災害関連死のリスクを持ちながら、まだまだ多くの方が避難所生活を続けている。数多くの専門支援チームが派遣されている中、鳥取県医師会JMATも1月18日から第1陣を派遣し2月末まで11チームを継続派遣する予定である。

さて、鳥取県健康対策協議会は、ポストコロナの地域の健康課題に取り組む中、本日の若年者心臓検診対策専門委員会で検診を通して、児童・生徒の心疾患の早期発見および健康管理指導を適切に行うための重要な役割を担っている。本日は3地区をつなぐTV会議ではあるが、幅広く忌憚のない意見をいただき、より充実した若年者心臓検診が行われることを願う。

〈吉田委員長〉

皆様、お忙しい中お集まりいただき感謝する。今年度も心電図検診を無事終えることができた。

日程的にもコロナ前の状況と同じようにスムーズに行えた。精密検査も概ね終了しており報告が集まってきている。

本日は令和4年度の結果がまとまったため、その報告がある他、鳥取県学校心電図検診スクリーニングガイドライン改訂についても意見を伺いたい。本日はよろしく願います。

報 告

1. 令和4年度心臓疾患精密検診結果について：

鳥取県体育保健課 前田指導主事

令和4年度定期健康診断受診者数57,690人のうち、心臓疾患精密検査対象者は1,442人、要精検率は2.50%であった。そのうち、精密検査の受診者は1,163人、受診率は80.7%で昨年度より1.3%増加した。

精密検査対象者のうち、新規の精密検査対象者は653人、そのうち精密検査を受けた者は515人、受診率は78.87%であった。

定期の精密検査対象者は789人、そのうち精密検査を受けた者は648人、受診率は82.13%であった。定期精密検査対象者の中には、2年に1回や3年に1回の受診対象者もいらっしゃるの、なかなか受診率が上がらない現状にある。また、調査の際に不整脈・心電図異常、先天性疾患の振り分け・集計に迷うことがあるとの意見があった。

委員より、「心臓疾患精密検査（その他）について（一覧）の分類整理をした方が良いのでは」「小学校の新規精密検査受診率が70.36%と低いのが気になる」と、意見が挙がった。今後、分類整理については、不整脈・先天性疾患・その他の3項目で検討されることとなった。受診率の向上については、教育委員会でも声掛けをするようにと周知を行っているが、コロナ禍での医療機関受診を控えられたご家庭が多かったことが影響している。引き続き周知を徹底していく。過去に文書料が問題で未受診だった事例もあるため、来年度以降各学校で未受診の理由の確認もしていく。

2. 令和4年度心電図検診結果について：

鳥取県保健事業団 長谷川課長

コロナ禍で昨年度同様日程変更等があった中で、検診を無事終了することができた。

実施学校数は延べ247ヶ所、受診者総数は19,323人（小学校：9,237人、中学校：4,806人、高等学校・高等専門学校：4,960人、盲・聾・養護学校：246人、その他：74人）であった。そのうち、正常範囲は18,821人、要精検は502人（内通院中要精検者は62人）で要精検率2.6%であった。各地区の要精検率は東部：2.7%、中部：3.0%、西部：2.4%となっている。要精検率は、過去5年間とほぼ同等の数値となっているが、受診者数が過去最低数となっている。

至急受診は12人であり、所見別内訳はQT延長が11人、Brugada型が1人あった。

年齢別内訳は、QT延長が東部の小学校1年生が1人、4年生が1人、中学校1年生が3人、中部の小学校4年生が2人、中学校1年生が1人、高校1年生が2人、西部の高校1年生1人であった。Brugada型は中部の高校1年生が1人であった。

協 議

1. 令和5年度以降の実施体制について

心臓疾患精密検査登録医療機関の更新手続きは、令和6年度中となっている。実施体制については、新たな見直しはなく、同様の体制で行っていくことが確認された。

委員等より以下の意見があった。

- ・令和6年4月に県立夜間中学校が開校となる。定員は1学年10人の全校30人で、対象は義務教育を受けることが出来なかった方となる。健康診断は学校保健法に基づき実施するが、年齢層が多岐に渡るため、学年が中学1年生であって年齢が高校生以上となる場合、精検で受診する医療機関は高校1年生に準じることとした。

2. 令和5年度心臓検診従事者講習会の日程について

例年、倉吉市において県教育委員会学校保健会との共催で1～2月に開催している。令和5年度は令和6年2月25日(日)午後1時30分～午後2時30分に、倉吉体育文化会館の大研修室にて開催予定である。講師は、委員の鳥取大学医学部周産期・小児科医学分野助教の美野陽一先生である。

委員から、「従事者講習会の日程を早く教えていただきたい。」と、意見が挙がった。来年度は日程が確定した段階で案内を送付する。後日正式な出欠案内状を送付することとなった。

3. 若年者心疾患・生活習慣病対策協議会総会について

吉田委員長より若年者心疾患・生活習慣病対策協議会について説明があった。

若年者心疾患・生活習慣病対策協議会が令和5年度は令和6年1月28日(日)三重県医師会館で開催され、吉田先生、橋田先生、美野先生が参加した。令和7年度(2026年1月～2月頃)は鳥取県にて、若年者心疾患・生活習慣病対策協議会総会を開催する。

過去には、鳥取県でも昭和60年と平成23年に鳥取市で開催されている。今後、開催場所等2026年

開催に向け、皆様に協力をお願いする。

4. その他

①鳥取県学校心電図検診スクリーニングガイドライン改訂案について：倉信委員

日本循環器学会・日本小児循環器学会合同ガイドラインとして、2019年に新しいスクリーニングガイドラインが発出されたが、鳥取県においては以前のガイドラインのままで判読が行われている。鳥取県でも2019年ガイドラインに変更するか提案された。改訂箇所としては、幅広いQ波、心室内伝導障害、左脚前枝ブロック、R・S波(左室肥大・右室肥大の疑い)、右胸心、QT短縮である。この改正で、心室内伝導障害は基準が緩くなり、今までスクリーニングの心室内伝導障害で引っかかっていた方は疾患を抱えている方が少ないため、スクリーニングで引っかかる方が減少し、要精検者の疾患保有率が高くなることが想定される。このことも踏まえて、改訂していく方向で委員からの意見を伺ったところ、特に異議がなかったため、今後、新しいガイドラインに沿って判読を行っていくこととなった。併せて、心電図記録票のレイアウト等の変更もあるのでこれについても随時進めていく。

心臓検診従事者講習会

日 時 令和6年2月25日(日)
午後1時30分～午後2時30分
場 所 倉吉体育文化会館「大研修室」
倉吉市山根
出席者 29名(医師28名、その他1名)

開 会

鳥取県健康対策協議会理事 岡田克夫先生

挨 拶

若年者心臓検診対策専門委員会委員長 吉田泰之先生

講 演

座長 若年者心臓検診対策専門委員会委員長
吉田泰之先生
講師 鳥取大学医学部統合内科医科学講座
周産期・小児医学分野助教 美野陽一先生

演題「心臓手術を受けた子供たちの学校生活について」

閉 会

鳥取県健康対策協議会理事 岡田克夫先生

その他

鳥取県医師会指定学校医制度 5単位
日本医師会生涯教育制度 1単位
カリキュラムコード(CC)
15 臨床問題解決のプロセス(1単位)

※本講習会終了後、同会館「大研修室」にて「第37回鳥取県医師会学校医・園医研修会」を開催。